



## ヒガンバナ(彼岸花)

朝夕に秋の気配を感じるようになると、長く伸びた花茎の先端に鮮やかな真紅の花を輪状につけたヒガンバナが、田の畔道や土手などに見られます。

秋の彼岸の頃に咲くためこの名がつき、稲作の伝来とともに古く中国から渡来したと言われていいます。

曼珠沙華という別名も一般的に知られていますが、これは古代インド語で「赤い花」という意味で、「法華経」の中にある言葉です。また、境内や墓地にも多く生えていることから、死人花、幽霊花などという寂しい別名もあります。

ヒガンバナは華やかな色合いにもかかわらず、なぜか人間の宿命である死、そしてその先の世界と結びつけて眺められることが多いようです。

「曼珠沙華真赤に咲き立つほそ徑を

通りふりむけばそのまま又見ゆ」

米 下 利 玄